

キオク あつめ

- 西の京 山口 -

ゲームブック

後光厳院、中宮延文元年庚子年京都三御方御下り而、從五位
梅小路大納言相國寺豐公入和尙越前中納言師氏卿御高方
被下周防國山口ハ山川四神相合相叶地所攝依東西南北中
応定ノ都ノ地ノ古例ヲ引テ法華經ハ軸ラ地ノ鋪変古變位
ハ第一町割ノ作ノ舊ルニ無益ナルニ依テ在掛ノ町ノハ
船ヲ新タスハ八疊ノ装束ヲ作ラシ中央ハ札ノ辻法華經五
尺ノ埋東ハ西法寺ノ上向ノ山ノ巖ノ埋ハ西ハ鳳舟山ノ半腹
ノ埋ハ北ハ七尾山ノ埋ハ南ハ姫山ノ埋也殿山ハ仁保坂ニ
三王社宮ニ鬼社ニ土社祇園後宕山宮野北山ニ露清
水寺同 初瀬銀閣寺ノ妙喜寺ノ雪舟ノ庵ニ蒙北野天神ハ
東山古熊野ノ建立ス以上言ニ十八ヶ所寺七十餘寺都ノ移

はじめに

本 PBL プロジェクト

「昔と今：地域と科学技術をつなぐプロジェクト」では、若者から高齢者にかけて幅広い年齢層での交流を生み出し、またそこに住む地域の人々が改めて自分の住む地域に興味関心を持つきっかけを生み出すプロダクト・メディアを提供することを目的とし、最終成果としては地域の歴史に根ざしたボードゲームの制作から利用までを目指す。故郷の歴史を未来につなげるために、そこに暮らす人たちの営みの記録や生活文化の多様性など大庭地区の変遷を学んだうえで、実際に生活をしている人たちの暮らしぶりを、実際に歩いてみたり住民に聴いたりしていく中で、その土地で暮らす人々の暮らしを支えてきたものなどを一緒に考えていく機会の提供及び、最終的に

は短期的競争による生き残りではなく、地域の真の価値に根ざしたプライドある主体による、ダイナミックな地域の持続のかたちを考えていく。あるものは形となって山口市内いたるところに姿を残し、あるものは形のないまま伝統となって、ともに山口文化の中に脈打ちつづけている大内文化の遺産を軸としたボードゲームを製作していった。

【企画概要】

プロジェクト型課題解決研究（山口大学国際総合科学部）

昔と今 地域と科学技術をつなぐプロジェクト

期間 || 2017 年 12 月 - 2019 年 3 月

プロジェクトメンバー || 小林功弥、中塚千帆里、山田慧太

指導教員 || 東島 仁

副指導教員 || 中尾 央（2017 年 12 月～2018 年 3 月）

仁平千香子（2018 年 3 月、2018 年 4 月～2019 年 3 月）

パートナー企業 || 富士ゼロックス山口株式会社

（Fuji Xerox Yamaguchi Co., Ltd.）



[目次]

はじめに
1

ゲームルール説明
3

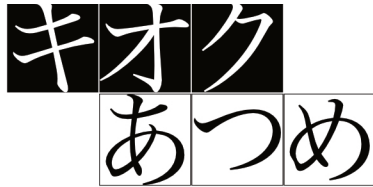
LOGUE1 背景と目的
5

LOGUE2 活動内容
7

REVIEW 活動地図
8

APPENDIX 付録
9

謝辞



- 西の京 山口 -

せつめいしょ
説明書

神経衰弱
地図—歴史

あらすじ

あなたはこの空間、**「キオクのトンネル」**に導かれた。
ここは「過去」「現在」「未来」をつなぐ唯一無二の道である。
「過去」を「現在」が記憶することで、「未来」への道が開かれるのだ。

トンネルの存在は「人の記憶」を源にして支えられている。
しかし今、トンネルは**「室町の記憶」**の枯渇とともに崩壊の危機を迎えていた。
このままでは「過去」も「未来」も消滅してしまう。

「キオクのカケラ」を集め、過去から未来への道をつなぎとめること。
これがあなたに与えられた使命である。

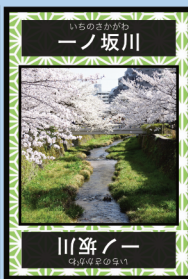
内容物

キオク・カード

(24種類48枚)



オモテ



ウラ

キオクのカケラ

(得点コマ 5種類24個)



すうじ
※数字=キオク・ポイント

ジダイ版



げんざい
現在
やまぐちがいず
(山口市街図)

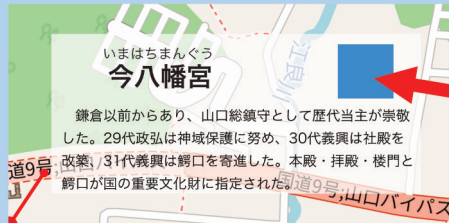


かこ
過去
おおうちしじだい やまぐちこず
(大内氏時代 山口古図)

ゲームの流れ

準備

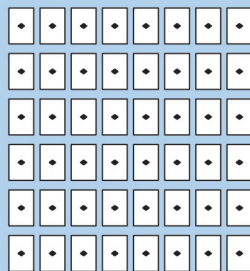
- (1) 使う「ジダイ版」の時代（現在・過去）を選び、選んだジダイ版に「キオクのカケラ」を置きましょう。



5

おな かたち
同じ形のカケラを置いてね！

- (2) キオク・カードを裏面にして並べましょう。おすすめの並べ方は縦6枚、横8枚です。



神経衰弱

準備ができたなら神経衰弱をします。

順番は「一昨日の晩ごはん」を思い出すのが一番遅かった人が最初の手番とし、時計回りで手番を回していきます。



- [1] 手番の人はカードを3枚選んでめくります。

- [2] そのうち2枚が同じカードならその2枚を自分のものにし、1枚は裏返しにします。

その後、もう一度[1]の手順を行います。

- [3] 1枚も揃わなければすべて裏返しにし、次の人の手番となります。

カケラ集め（ゲーム終了）

神経衰弱が終わったら、「ジダイ版」を見ながら集めた「キオク・カード」と同じ名称のものを見つけます。

同じ名称を見つけたらそこにある「キオクのカケラ（コマ）」を取っていき、すべて取り終えたら書かれているキオク・ポイントを足します。

一番多くのキオク・ポイントを獲得した人が「キオクのトンネル」を守った英雄です。

昔と今 地域と科学技術をつなぐプロジェクト

LOGUE1

背景と目的 Background and Purpose



山口市大殿大路（以下大殿地区）は、現在の瑠璃光寺から南下したところにある地区である。その周辺は「大内氏」が室町時代、西の京としてその地を治めようとしたため京都に倣った街づくりがなされ、現在に至るまでその面影は地図を見てもわかるように残されている。本企画は、この大殿地区周辺の古地図を利用し、地域課題を解決することがテーマである。古地図といえば、その利用方法として観光用のアプリケーションやイベント等が挙げられ、このような例は人の歴史的知見を蓄えたり広めたりすることに有意義なものとなっている（大江戸今昔めぐり制作委員会 2017 など）。

また、山口の歴史に関連する事業としては、現在、山口市の歴史観光誘致で幕末維新を主体に観光政策が取り組まれている（明治 150 年記念事業山口県推進協議会 2017）。こうした観光政策では江戸時代末期が中心となっているが、本企画では対象の地域が大殿地区周辺であり、大殿地区は江戸・明治時代よりも前の室町時代に栄えた街である。また、本地域は現地ほぼ住宅街として使用されており、残されている当時の建造物は寺や神社の類が大半である。

実際に歩き回ってみても、「歴史・文化」タイプの観光地としては有用かもしれないが、元乃隅稻成神社や防府天満宮等のように観光映えする場所とも言えず、歴史や文化に深く興味を持った人（悪く言えばマニアックな人）が訪れる場所に止まっている。

その一方、幾度かのフィールドワークを通じて体感できたのは、大殿地区に住む方々の中には、山口のルーツである大内氏に対し、敬意やプライド、愛着というものを持っている方々も少なくないということである。しかし他方で、こうした敬意・愛着などが全ての人に共有されているわけではない。実際、大殿地区にはこうした歴史に関する関心を引き出せるようなボードゲームが貢献できるような課題をいくつか見つけることができる。たとえば、大殿地区の人口は年々減少している。こうした地域を維持し、可能な範囲で活性化していくためには、地域そのもののアイデンティティを再考しておくことが有用だろう。そのアイデンティティが、今後の地域のあり方・方向性を考えるにあたって役立っていくと期待する。



LOGUE2

活動内容

Contents of activities

歴史学習 〓 本 PBL プロジェクトの目的の 1 つは、大殿地区を中心とする大内氏時代の山口市の歴史を舞台にボードゲームを作成することである。したがって、山口市大殿地区周辺に居館を構えた大内氏に関する歴史情報の収集が必須となる。その前段階として、プロジェクトメンバー自身の基礎的な大内氏の歴史や文化の知識の習得、またそれらの知識を醸成することが必要であったため、本プロジェクトのアドバイザーである横山成己氏（山口大学埋蔵文化財資料館）からのご助言を元に、大内氏や山口の歴史に関する文献から情報収集を行った。



ボードゲーム制作 〓 人々が地域の歴史に触れ、理解を深めるにあたり、直接訪れること、見ることのできる文化財は有用であろう。文化財（山口市 山口市内の指定文化財 2016 年）は、建築物、絵画、彫刻、工芸品、書籍、古文書、考古資料、歴史資料の項目に分かれている。本プロジェクトでは、プレイヤーがゲームを体験した後に、実際に足を運び見てもらいやすいように、建築物を中心に持ち上げ、遊び手にゲームを楽しんで貰いながら、歴史を深く知るきっかけとなるゲームデザインを目指して試行とゲーム修正を重ねていった。最終的には、ゲームのデザイン変更により、ゲーム時に使用するゲームボードに場所や人物とそれぞれの説明を加え、完成とした。



フィールドワーク 〓 机上の歴史学習だけでは補いきれない、山口の土地が紡いできた歴史や文化を、実際にその土地へ赴き歩いてみることでより肌身で感じるとともに、その上で地域の課題はなんなのか、またその課題を解決するメディアとしてのゲームへいかに活かせるかを調査・考察した。その際、昔と現在を繋ぐという観点を重視すると共に、歴史というある種センシティブなテーマを扱っていく中で、一定の客観性を保ちつつ様々な人・時代・立場・角度から大殿地区を理解し、さらに地域の住民の方々にとっていかにその土地の歴史が浸透しているのか、またどの程度の関心があるのかに注目して調査した。



REVIEW

活動地図

Map of activities

児童館でのゲームプレイ体験

日時 平成 30 年 6 月～8 月

会場 山口児童館、三和児童館



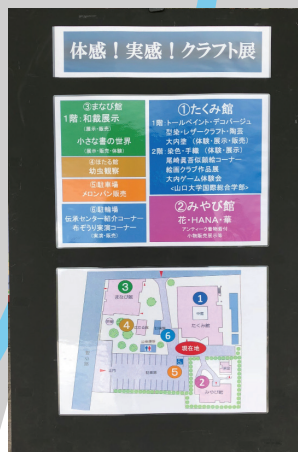
大殿地区にある山口児童館と白石地区の三和児童館にて、小学生低学年を対象としたボードゲーム体験イベントを実施した。このイベントを実施した目的としては、自分たちがボードゲームを製作していく上で、プレイの対象となる小学生が、ボードゲームをいかにして理解しプレイしていくのか、ゲームをプレイ及び理解していく過程がどのようなのか、既存のボードゲームを用いて検証することだ。このイベントを通して、子どもたちは、どの程度のレベルのボードゲームなら楽しんで遊べるか、また関心を持ってもらえるかなどを実際に肌で感じられ、ボードゲームを製作していく上で大変参考となった。

アートふる山口 2018

日時 2018 年 10 月 7 日 [日]

12:00-16:00

会場 山口ふるさと伝承総合センター
2F 研修室



アートふる山口という、次世代にまちの良さを伝える地域主導のまちおこし・ひとづくりのイベントに参加した。「天から振る」「full: いっぱい」からとった歴史・文化・伝統・創造という、広い意味でアートに溢れる、という思いを込められたイベントである。プロトタイプのゲームシステムが決まっていたが、カードの枚数の調節・カードのデザイン・得点コマの点数等の細部を確定するための意見をもらうこととゲームをプレイする様子の観察や、少しでも多くの人に我々の活動に興味を持ってもらうことを大きな目的として、大路ロビーのご紹介いただいた、アートふる実行委員会の有吉博氏のご協力の下、ゲーム体験会を実施した。

野田
Noda

八坂神社

山口ふるさと伝承総合
センター

下堅上

大殿地域交流センター
Odono a centre for exchange among locals

山口児童館

中河原
Nakagawara

一の坂川
Ichinosaka
River

山口祇園祭 フィールドワーク



日時 平成 30 年 7 月 20 日、24 日

会場 八坂神社周辺

山口の歴史は元より、今まで人々の生活により密接した歴史について学んでいく中で、一番といっているほど身近であるのは「祭り」などの祭事ごとであるという機会が多かった。したがって、調査を始めた中で早い祭り事である山口祇園祭に参加することにした。山口に夏の訪れを知らせる山口祇園祭は、室町時代に大内氏が京都から歓請した八坂神社の例祭で、現在に至るまで約 600 年もの間続いている伝統ある祭りであり、7 月に三度開催される。私たちはその中でも、特に有名である鷲の舞の奉納や御神幸が行われる 20 日と、「大内のお殿様」と称される曲に合わせて市民が一同に踊る市民総踊りがある 24 日を調査した。

APPENDIX

付録

card date & explanation

今回、ゲームで使用したカードの情報についての解説及び、内容の詳細についてここに一覧として掲載する。ゲームと合わせて読んでもらえるとより一層理解が深まることを期待する。ゲームで使用する歴史情報は、ゲームのルール上、24種類前後という限られた数となった。そのため選択に際しては、古地図に描かれている寺社等を優先して取り上げた。またゲームの親しみやすさという点から、山口古図の中から現存していて有名なもの、現存するがそこまで知られていないもの、山口古図に記載されている寺社以外の事物のうち、また現存するもののうち、収集するパンフレット等に掲載されている割合が高く知名度が高そうなものを中心に選択した。このとき、古地図に描かれている範囲における国指定・県指定・市指定の文化財かどうかとも参考にした。(山口市 山口市内の指定文化財 2016 年) 文化財は、建築物、絵画、彫刻、工芸品、書籍、古文書、考古資料、歴史資料の項目に分かれているが、本プロジェクトでは、プレイヤーがゲームを体験した後に、実際に足を運び見てもらいやすいように、建築物を中心に取り上げた。また本付録では、数の関係上カードに掲載しきれなかった情報も掲載している。興味関心がある人はこちらも含めて見てもらえると、より一層理解が深まるだろう。

カード	名称	内容・詳細	カード	名称	内容・詳細
	大内弘世 おおうちひろよ	4 代大内氏当主。防長両国を統一し、居館を山口の大内氏館に移転した。それに伴う家臣の集住や京都の祇園社・北野天神の勧請で山口の都市化が進む。十境詩は弘世がもてなした趙秩（ちょうちつ）の詩である。		厳島神社 いつくしまじんじや	26 代大内盛見が安芸国から勧請し、現在の県庁の場所に位置したという。歴代当主が宮島の厳島神社に参拝したほか、大鳥居を 31 代義隆が創建するなど、歴代当主が深い尊崇を寄せていたことが伺える。
	八坂神社 やさかじんじや	24 代大内弘世が山口に拠点を移し、京都の祇園社（八坂神社）を勧請した。はじめ建立された場所から、30 代大内義興により高嶺大神宮と同じ場所に移り、後江戸末期に現在の地に移った。		大内御殿 おおうちごでん	4 代大内弘世が山口を本拠と定め移り住んだ時に築かれたといわれる。現在の龍福寺とほぼ同じ場所に位置する国指定の史跡である。大内氏の強い政治力と貿易による豊かな経済力の中心は、栄華を極めた。
	北野天神 きたのてんじん	24 代大内弘世が、京都の北野天満宮から勧請した。室町時代の北野小路あたりに位置したというが、2 度の移転を経て現在に至る。本殿・拝殿と「絵本墨画天神図」が国の重要文化財に指定された。		築山館 つきやまかん	28 代大内教弘が築いた別邸である。連歌師の宗祇（そうぎ）など著名な文化人を招くなどして、豪華な宴が催されていたようである。国指定の史跡で、現在跡地には八坂神社と築山神社がある。
	五重塔 ごじゅうのとう	現在は瑠璃光寺にあるが、室町時代は香積寺であった。25 代大内義弘を弔うため、弟の 26 代盛見が建立を計画し、1442 年に完成した。今日に残る大内文化の象徴である。		今八幡宮 いまはちまんぐう	鎌倉以前からあり、山口総鎮守として歴代当主が崇敬した。29 代政弘は神域保護に努め、30 代義興は社殿を改築、31 代義興は鰐口を寄進した。本殿・拝殿・楼門と鰐口が国の重要文化財に指定された。
	大内政弘 おおうちまさひろ	29 代大内氏当主。応仁の乱で活躍したほか、私歌をまとめた『拾塵和歌集』など文化面でも大きく貢献した。和歌や連歌を楽しみ、宗祇（そうぎ）を始め多くの連歌師と交流をもつ。雪舟に築庭を依頼したといわれる。		高嶺大神宮 こうのみねだいじんぐう	敬神思想に傾倒した 30 代大内義興が伊勢の神宮を勧請した。直接御分霊を受けて、大神宮社が創建されたのは、明治になるまでは日本国中では実にこの高嶺大神宮（山口大神宮）だけであった。
	雪舟 せつしゆう	大内教弘、政弘、義興の 3 代にわたり山口で過ごし、雲谷庵で国宝「四季山水図」（山水長巻）などを描いた。雪舟が築庭した常栄寺の庭園も現在に残る重要な史跡である。		雲谷庵 うんこくあん	天花の七尾山麓に位置する。29 代大内政弘により招かれた、中世の画聖雪舟のアトリエがあったところで、代表作である国宝の「四季山水図」（山水長巻）はここで描かれたといわれている。
	雪舟庭 せつしゆうてい	29 代大内政弘の別邸で、妙喜寺といった。政弘が雪舟に命じて築庭させたと言われており、枯山水を用いた回遊式庭園で、国の名跡名勝に指定された。常栄寺は後から毛利氏によりこの地に移された。		善生寺 ぜんしやうじ	大内氏の重臣、内藤興盛の菩提寺である西方寺の跡地である。興盛は、30 代大内義興と 31 代義隆の 2 代にわたり仕えた。この寺の庭は、雪舟が築庭したと言われており、池泉観賞式庭園である。
	大内義隆 おおうちよしただ	31 代大内氏の当主。対明貿易による富と文化を好む性格から大内文化を大成した。西日本を従える戦国武将らしからぬ性格により重臣の陶晴賢に謀反を起こされた。		フランシスコ・サビエル フランシスコ・サビエル	海を渡り、日本で初めてキリスト教を布教したカトリック教会の宣教師。31 代大内義隆に許可を得て、大道寺を拠点に宣教した。メガネ、時計、望遠鏡等を義隆に献上したという。
	大道寺 だいどうじ	31 代大内義隆が宣教師サビエルらのキリスト教の宣教を許可し、当時廃寺であった大道寺をその拠点として与えた。その後、サビエルは約半年の間山口で布教に努めたという。大道寺の場所は今なお明らかではない。		陶晴賢 すえはるかた	文化を好んだ 31 代大内義隆に謀反を起こし、大内氏を滅ぼした。もともと陶氏は大内氏の分家の一族で、歴代大内氏の重臣として仕えていた。晴賢と名乗る前は、隆房（たかふさ）といった。

カード	名称	内容・詳細	補足	カード	名称	内容・詳細	補足
	樫野川 ふしのがわ	山口湾へと続く樫野川は、重石（かさねいし）のある場所が船の発着場となり水上の交通に利用されていたという。山口を訪れた武将や文化人も利用したに違いない。一ノ坂川や仁保川との支流である。			一ノ坂川 いちのさかがわ	山口盆地を流れる一の坂川は、京都の鴨川に見立てられたという。一説によれば、24 代大内弘世がゲンジボタルを京都の宇治から取り寄せたと言われている。5 月下旬から6 月上旬にかけてに見られる。	
	法泉寺 ほうせんじ	30 代大内義興が 29 代大内政弘のために建立した。現在は国の天然記念物に指定された一本の「シンパク（イブキの別名）」が残ってるだけである。法泉寺の山門の傍に植えられたものだという。			善福寺 ぜんぶくじ	明治時代に廃寺となった時宗の寺。現在の道場門前の北側に位置し、道場門前・西門前は善福寺の門前の町であった。時宗の多くの僧侶は芸能に優れていたため、連歌師の宗祇（そうぎ）が山口を訪れた際の宿かもしれない。	
	清水寺 せいすいじ	平安時代初期に建立。金剛力士像が安置された山門をくぐり参道を進めば、観音堂、山王社本殿がある。どれも県の重要文化財に指定されており、観音堂は 26 代大内盛見（もりはる）により建立されたという。			仁壁神社 にかべじんじや	創建の時期は定かではないが、平安中期には宮野にあったと言われている。周防国三ノ宮として知られており、その起源は、九州の戦陣から帰った 30 代大内義興が戦勝を 5 社に報告したという周防五社詣にある。	
	趙秩 ちようちつ	24 代大内弘世が九州から京都に向かおうとした明人趙秩らを招き手厚くもてなしたという。その際に十境詩がよまれた。			十鏡詩 じつぎようし	趙秩が山口の景色を読んだといわれている。古熊、法泉寺、宮野、氷上、御堀、天花、鰐石対岸、鰐石、湯田の詩がある。	
	鷺の舞 さぎのまい	山口県指定文化財のひとつである八坂神社の神事。24 代大内弘世が神霊を京都から山口へ勧請した時、同じように神事として移したのと考えられている。			ちようちん祭り	山口県指定文化財のひとつである八坂神社の神事。24 代大内弘世が神霊を京都から山口へ勧請した時、同じように神事として移したのと考えられている。	
	大内持世 おおうちもちよ	27 代当主。持盛と家督を争う。筑前の小貳氏を破り、豊後の大友氏を討つ等活躍した。嘉吉の乱に巻き込まれ生涯を終える。			大内教弘 おおうちのりひろ	28 代当主。少貳氏を討たんと出陣するも病んで死んだ。朝鮮と親密な関係にあり、勘合符を受け取る。	
	宗祇 そうぎ	室町時代の有名な連歌師で、29 代大内政弘招かれ山口には 2 度訪れた。			連歌 れんが	鎌倉末期の連歌の発展に尽くした 3 人と大内氏は密接な関係。二条良基、一条兼良、三条西実隆等、主な連歌師は山口へ客遊している。連歌が極盛に達した時代は宗祇の時で、宗祇が山口では本国寺を宿としたと言われている。	
	大内版 おおうちばん	華やかな大内文化の一部である、大内氏により出版されていた書物の総称。			大内家壁書 おおうちけがきがき	歴代の大内家当主が領内や分国を治めるために発布した法令。またの名を「大内氏掟書」という。	
	大内菱 おおうちびし	大内氏の家紋。大内氏と関わりの深い寺社で現在も見ることができる。			ゲンジボタル	24 代大内弘世が京都より迎えた姫君を慰めようと、宇治のゲンジボタルを取り寄せたことが、山口に生息するゲンジボタルのはじまりだといわれている。	
	漆器 しつき	明や朝鮮と大内氏との貿易で数多く輸出されていた。大内塗として現代に残っている。			柳の水	大内時代から知られている山口三名水の 1 つ。現在でも枯れずに湧き続けている。	
	藤の水 ふだみづ	大内時代から知られている山口三名水の 1 つ。現在は枯れてしまい、記念碑が建てられている。			朧の清水 おぼろのしみず	大内時代から知られている山口三名水の 1 つ。夏の間のみ、湧いている。	
	唐人小路 とうじんこうじ	外国の文化を積極的に受け入れた大内氏により山口には、商人や技術者等明人が住んでいた。			大殿大路 おおどのおおじ	現在の龍福寺前の通りの名前。幕末の頃までは「大殿小路」であった。	

〔謝辞〕

—

本プロジェクトの遂行にあたり、沢山の方々にご協力頂きました。
歴史的観点から助言して下さった横山成己先生（山口大学 大学情報機構 埋蔵文化財資料館）、大殿地区のみなさまから意見を頂く機会を提供して下さった河野智さま（NPO 法人 大路小路まち・ひとづくりネットワーク 大路ロビー）、山口児童館や三和児童館をはじめとして、テストプレイやフィールドワークにご協力頂いたみなさま、特に大殿地区や湯田地区、山口市中心商店街近辺のみなさまに深くお礼申し上げます。

—

〔カード〕

「キオクあつめー西の京 山口編ー」

発行 〓 2019 年 3 月 9 日発行

制作 〓 小林功弥*、中塚千帆里*、山田慧太*

制作協力 〓 横山成己、東島仁*、ファブラボ山口

イラストレーション 〓 山寺わかな

撮影 〓 山田慧太*

画像提供 〓 横山成己

古地図提供 〓 山口県文書館

現代地図提供 〓 © OpenStreetMap contributors

印刷製本 〓 富士ゼロックス山口株式会社

（Fuji Xerox Yamaguchi Co., Ltd.）

参考文献 〓 山口市史編集委員会「山口市史」1982、2010、2015、2016

—

—

〔ルールブック・カタログ〕

—

デザイン・編集（ルールブック） 〓 山田慧太*

デザイン・編集（カタログ） 〓 小林功弥*

編集協力 〓 横山成己、東島仁*

撮影 〓 山田慧太*

画像提供 〓 横山成己

古地図提供 〓 山口県文書館、© OpenStreetMap contributors

印刷製本 〓 富士ゼロックス山口株式会社

（Fuji Xerox Yamaguchi Co., Ltd.）

—

* 所属 山口大学国際総合科学部

—

心の支え 〓 中尾央

—

—

©2018 昔と今 地域と科学技術をつなぐプロジェクト

無断転載禁止

〔関連イベント〕

—

アートふる山口 2018

日時 〓 2018 年 10 月 7 日 [日] 12:00-16:00

会場 〓 山口ふるさと伝承総合センター 2F 研修室

協力 〓 有吉博（アートふる山口実行委員長）

河野智

—

おおどのコミュニティ協議会 やすらぎ部会 テストプレイ

日時 〓 2019 年 1 月 17 日 [木] 19:30-20:30

会場 〓 山口市大殿地域交流センター 1F 講堂

協力 〓 笹岡朱美（おおどのコミュニティ協議会）

—

大殿大学

日時 〓 2019 年 1 月 22 日 [火] 18:00-19:00

会場 〓 山口市大殿地域交流センター 2F 研修室

協力 〓 嬉野雅彦（大殿地区社会福祉協議会）

—

—

ボードゲームお披露目会

日時 〓 2019 年 3 月 9 日 [火] 13:00-17:00

会場 〓 山口ふるさと伝承総合センター 2F 研修室

あとがき

歴史・文化の伝承に関しては、実際にボードゲームをプレイするとわかるが、ゲーム中に何度も歴史的な名称を唱えるという仕掛けの中にある、単純な行為によって、歴史について比較的関心が薄い層（若年層）にも、ゲームをやる前とやった後では地域の見え方（個人の視点の充実）が変わってくるのではないのだろうかという期待、また、ゲームを介して地域の知識の豊富な人が、自発的におしゃべりするような状況が発生するということは歴史的伝承だけでなく、世代間の交流という面を考えても有用なものなのではないかと考える。ゲームを介した中での交流では、歴史というテーマだけでなく、自分たちの身の回りの地域での生活にも密接しているもののため、親和性があるように感じる。たとえば、ゲームを通して、これまでの地域での言い伝えなどを引き出すことだって可能であるし、これからの伝承を引き出すツールとしても用いられることだってできるように考える。歴史についてこれから知りたいと思う人たちにとっても、歴史の小説や漫画を手にとったり、インターネットで検索したりすることと同じように、歴史にすぐに触れられて楽しめるツールのひとつとして、このゲームを利用されることを期待している。